

「樹木の実生図鑑 芽生えと樹形形成」

"Tree seedlings ~ Key to identify matured architecture" edited by Hiroaki Hatta

八田洋章（編著），文一総合出版，255pp，定価17,280円（16,000円＋税），（2015）

樹木にかなり詳しい人でも、芽生え・実生での樹種の判断には自信がもてないものだろう。実際、私自身、森林を歩いてこれ何の実生と悩み、またそこに立つ樹木を見上げて、これの実生だったのかとわかってうれしくなったりする。もっと知りたければ、種子を採取・播種し発芽させて確かめるしかないであろう。

本書は八田洋章さんを代表とする樹形研究会の磯田恵・竹中昭夫・八田洋章さんの文に持田秀雄・八田洋章さんの観察、磯田恵・枚岡博・八田洋章さんによるデータ整理、それに八田洋章さんの写真でできたとされる。野生の樹木、園芸樹木、果樹などを含め231種もの樹木の種子（果実）と芽生え、幼時の実生、成葉の形態、さらに、根のついた実生の標本写真がカラーで示される。樹木の実生がこんなかたちなのかと興味を惹かれ、ページをめくるのが楽しい。種ごとに付けられている主軸積算伸長量も樹種それぞれに個性があることがわかる。

総論として、I 芽生えの姿（磯田恵・持田秀雄・枚岡博・八田洋章）では、発芽に要する期間、地上子葉型と地下子葉型、子葉数、根際からの分枝などについて、II 実生と樹形形成、芽生えを

観ればおよそその樹形がわかる（八田洋章）では、芽の伸長型と樹形形成について、III 芽生えに進化の歴史が見え隠れする（八田洋章・磯田恵）では、幼苗期に限って認められる諸性質についての解説がある。

それにしても、根気のいる仕事である。発芽させた芽生えと数年間の実生の生長の写真撮影、主軸伸長量の定期的な測定、実生の子葉の数とかたち、低出葉・初生葉の有無、子葉に続く数節の葉序のかたち、根際からの分枝・ダイバックの有無、ラマスシュート（2度伸び）の有無などの観察がていねいに記録されている。全伸長量も3年間分つけられている。

樹形研究会のメンバーの仕事であったにしろ、その執念・根気には敬服する。森林の地表植生調査などでの実生の樹種判定に役立つであろうし、タイトル通り「樹木の実生図鑑」として自然観察にも役立つであろう。

高価にならざるを得なかったのであろうが、このような地味な研究成果を評価し出版された文一総合出版にも拍手を贈りたい。

（渡辺弘之）